【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成20年12月4日(2008.12.4)

【公開番号】特開2007-175448(P2007-175448A)
【公開日】平成19年7月12日(2007.7.12)
【年通号数】公開・登録公報2007-026
【出願番号】特願2005-380455(P2005-380455)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　1/00　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　5/07　(2006.01)
Ａ６１Ｊ　3/07　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　1/00　３２０Ｂ
Ａ６１Ｂ　5/07
Ａ６１Ｊ　3/07　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成20年10月22日(2008.10.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
被検体内情報を取得して該被検体内情報を被検体外に無線出力するカプセル型医療装置と、前記被検体外に配置され、前記カプセル型医療装置から無線送信される前記検体内情報を受信する受信装置とを備える被検体内観察システムであって、
前記カプセル型医療装置は、第１の液体と、前記第１の液体よりも比重が軽くて該第１の液体と混じりあわない第２の液体とが前記被検体の臓器内に導入された状態において、前記第１の液体と前記第２の液体との中間の比重を有するように構成されていることを特徴とする被検体内観察システム。
【請求項２】
前記カプセル型医療装置は、前記検体内情報として被検体内画像を撮像するための撮像光学系を有するカプセル型内視鏡であることを特徴とする請求項１に記載の被検体内観察システム。
【請求項３】
前記カプセル型医療装置は、前端側方向、前端側斜視方向または前端側周方向のみ撮像可能な単眼型のカプセル型内視鏡であることを特徴とする請求項２に記載の被検体内観察システム。
【請求項４】
前記カプセル型医療装置は、前端側方向および後端側方向を撮像可能な複眼型のカプセル型内視鏡であることを特徴とする請求項２に記載の被検体内観察システム。
【請求項５】
前記カプセル型医療装置は、前後方向の重量バランスを変えて重心位置を偏心させたことを特徴とする請求項１～４のいずれか一つに記載の被検体内観察システム。
【請求項６】
前記第１の液体および前記第２の液体は、前記カプセル型内視鏡の前記撮像光学系が撮像可能な光の波長に対して透明であることを特徴とする請求項２～５のいずれか一つに記

載の被検体内観察システム。
【請求項７】
前記第１の液体は、飲料水であり、前記第２の液体は、食用油であることを特徴とする請求項１～６のいずれか一つに記載の被検体内観察システム。
【請求項８】
前記第１の液体および／または前記第２の液体は、臓器内導入量が可変的であることを特徴とする請求項１～７のいずれか一つに記載の被検体内観察システム。
【請求項９】
前記臓器内導入量の可変は、前記第１の液体の導入量の順次増加であることを特徴とする請求項８に記載の被検体内観察システム。
【請求項１０】
前記被検体の所望の臓器は、胃であることを特徴とする請求項１～９のいずれか一つに記載の被検体内観察システム。
【請求項１１】
前記第１の液体、前記第２の液体および前記カプセル型医療装置が前記所望の臓器内に導入された前記被検体の体位を変化させる体位変換装置をさらに備えることを特徴とする請求項１～１０のいずれか一つに記載の被検体内観察システム。
【請求項１２】
前記第１の液体と前記第２の液体との境界面における前記カプセル型医療装置の浮揚位置および／または浮揚姿勢を検出する検出手段を備えることを特徴とする請求項１０に記載の被検体内観察システム。
【請求項１３】
前記検出手段は、前記カプセル型医療装置に内蔵されていることを特徴とする請求項１２に記載の被検体内観察システム。
【請求項１４】
前記被検体内情報取得時に前記検出手段で検出された前記カプセル型医療装置の浮揚位置および／または浮揚姿勢の情報を参照して、前記カプセル型医療装置が取得した複数の被検体内情報同士を結合する結合処理手段を備えることを特徴とする請求項１２または１３に記載の被検体内観察システム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】被検体内観察システム
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】
本発明は、被検体内観察システムに関するものである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明は、上記に鑑みてなされたものであって、観察対象となる胃などの臓器を十分に伸展・拡張させて十分な視野を確保して良好なる観察を行うことができる被検体内観察シ

ステムを提供することを目的とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
本発明にかかる被検体内観察システムによれば、被検体の所望の臓器内に、第１の液体とこの第１の液体よりも比重が軽くて該第１の液体と混じりあわない第２の液体とともに、これら第１の液体と第２の液体との中間の比重を有するカプセル型医療装置を導入することで、カプセル型医療装置を、第１の液体と空気との境界面の場合よりも、第１の液体と第２の液体との液体同士の境界面に安定して浮揚させることができ、かつ、カプセル型医療装置の観察方向が境界面よりも下向き、上向きのいずれであっても、第１の液体に加えて第２の液体の導入によって境界面よりも上方位置に亘って十分に伸展・拡張された所望の臓器内で十分な視野を確保して良好なる観察を行うことができるという効果を奏する。